



図196 遺跡の位置
5万分1地形図「新潟」

東田遺跡 ひがしのだい 江南区茗荷谷 みやうがたに

東田遺跡は新潟市江南区茗荷谷字東田にある。新潟市が建設する卸売市場予定地で、平成十一（一九九九）年の試掘調査で発見された。遺跡は亀田郷の低湿な沖積地の中の砂盤の上に営まれている。この砂盤は、新潟砂丘Ⅰ（亀田砂丘）が海岸線だったところに形成された海底地形と考えられる。

平成十二年に新潟市教育委員会が八九〇〇平方メートルを発掘調査し、たてばしら 立柱建物跡二棟、井戸四基、土坑一五基、溝状遺構三基などが見つかり、古墳時代前期のごく短い期間に営まれた、比較的小さな集落跡であることが分かった。出土した土器は、北陸地方の影響を受けて地元で作られたと考えられるものが多いが、中には東海地方や近畿地方の影響を受けた土器もあり、特に祭祀の時に使われたと考えられる土器には近畿地方の土器と同じ特徴を持つものが多い。

掘立柱建物跡に隣接する溝の周辺からは、総量約四キログラムに及ぶ炭化米（図一九七）が見つかった。このことは、この集落に暮らしていた人々が稲作を行っていたことを示している。発掘調査が行われた範囲内では水田跡は発見できなかったが、周辺にあると考えられる。また、木製品も多く見つかった。未完成のものや破損したものが多かったため、全体の形が分かるも



図197 炭化米



図198 出土土師器 上,高坏,口縁
直径28.8センチメートル 下,壺,口
縁直径30.9センチメートル

のはほとんどなかった。木の種類は、建物の柱はすべてクリ、道具の一部と思われる部材はおおむねスギであった。建築部材には堅い木を、道具には加工しやすい木を選んで使っていたと考えられる。鉄製品を製造する際に出る鉄滓てつさいが見つかっていることや、木製品の加工痕跡こんせきから、木を加工するときには鉄製品が使われていたと考えられる。また、桃やクルミの種実も出土している。

この集落に暮らしていた人々は、稲作をしながら、クリや桃、クルミなども食べていた。また、木材の加工に鉄製品を使っていることから、稲作でも鋤くわ・鋤すき・鎌かまなどの鉄製農具が使用されていたと考えられる。鉄の供給ルートを考えてみると、やはりヤマト政権との結びつきが推測される。祭祀に使われた土器に近畿地方の影響を受けたものが多いことも、ヤマト政権とこの地域との結びつきを示している。